

CTM サーバにおける静的 CORBA リスナー ポートの使用

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[トポロジ](#)

[スタティックCORBAリスナーポート](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Transport Manager (CTM) サーバに静的 CORBA リスナー ポートを実装する方法について説明します。この手順では、CTM サーバとネットワーク要素 (NE) 間に存在するファイアウォールで解放される必要がある TCP のポートの数を削減できます。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CTM

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- CTMバージョン4.6.x以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

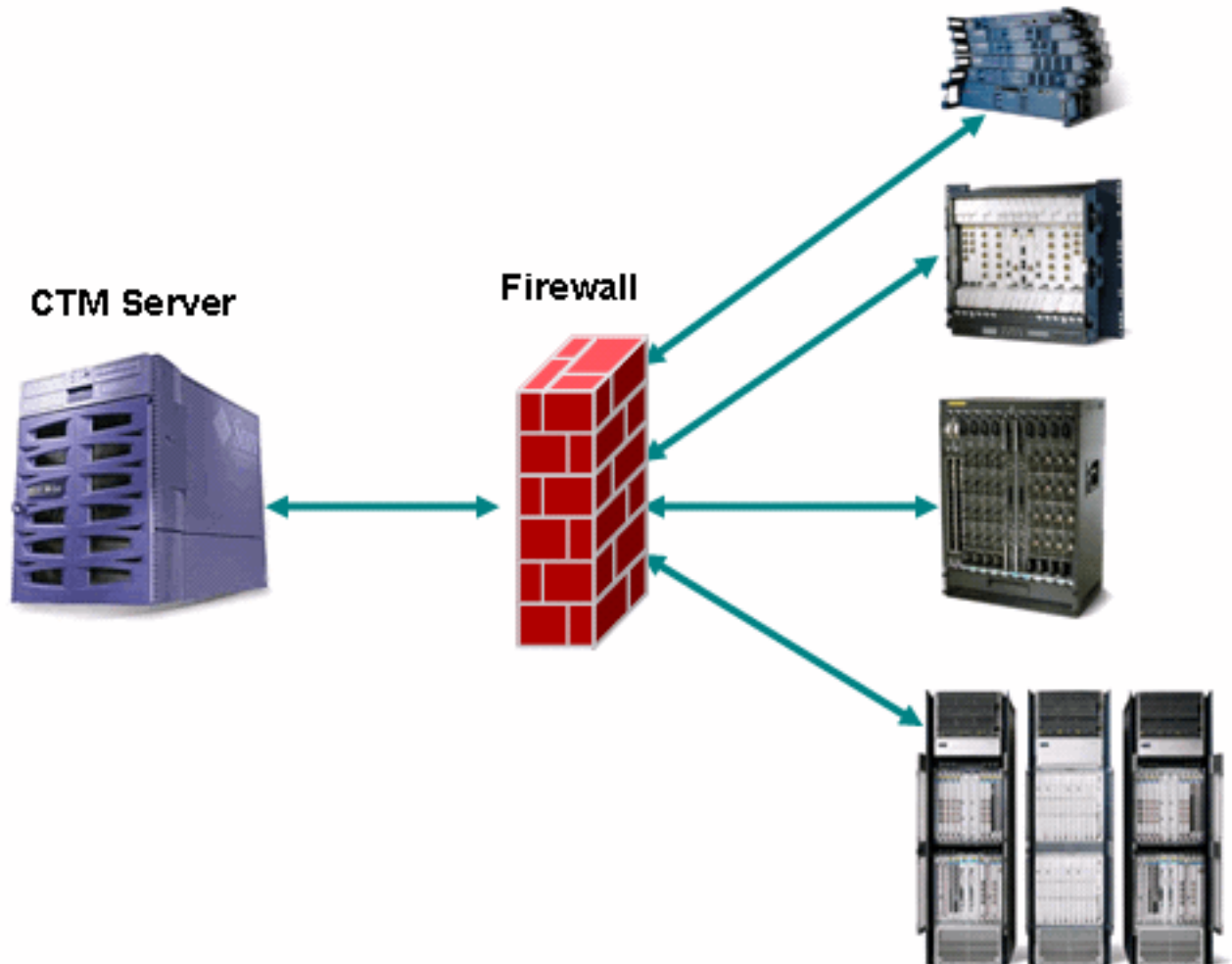
表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

トポロジ

図1にトポロジを示します。ファイアウォールは、CTMサーバとNEを分離します。すべてのNEはファイアウォールの内側にあり、CTMサーバはファイアウォールの外側にあります。

図 1 : トポロジ



スタティックCORBAリスナーポート

CTMサーバとNE間のファイアウォールはサポートされている設定です。CTMサーバのCORBAインターネットInter-ORBプロトコル(IIOP)リスナーポートは、デフォルトで動的です。CTMサーバとNEの間に存在するファイアウォールは、多数のTCPポートを開く必要があります。TCPポートの数は、1024 ~ 65535の範囲である必要があります。

セキュリティリスクを減らすために、CTMサーバでスタティックCORBAリスナーポートを使用することを推奨します。スタティックポートは、ファイアウォールで開く必要があるTCPポートの数を減らします。次のステップを実行します。

1. `/opt/CiscoTransportManagerServer/bin`ます。
2. `ctms-stop`を使用してCTMを停止します。
3. Telnetを使用して、ルートとしてCTMサーバにログインします。
4. `/opt/CiscoTransportManagerServer/bin`


5. jne454.shファイルを編集して、-classpath行の前にこの行を挿す(図2の矢印Aを参照)。

```
-Dong.orb.iioplistenerport = port number \
```

推奨ポート番号は5555です。5555を選択した場合は、-Dong.orb.iioplistenerport=5555 \: 図2

- jne454.shの一部のリスト

```
-Djacorb.net.socket_factory.port.min=1024 \  
-Djacorb.net.socket_factory.port.max=65535 \  
-Djacorb.retries=0 \  
-Djacorb.connection.client.pending_reply_timeout=120000 \  
-Djacorb.delegatewait=120 \  
-Dctm.persist.enable=false \  
-Dctm.xmlFW.processFaults=true \  
-classpath LAUNCHER.jar:$CTMSHOME/bin/CfgMgr.jar:$CTMSHOME/bin/security.jar:$CTMSHOME/openfusio  
-a `grep server-host $CTMSHOME/cfg/CTMServer.cfg | awk '{print $3}'` \  
$2 $3 $6 $7 1> $OUTFILE 2>&1 &
```



6. CTMサーバがファイアウォールの外側にある場合は、TCPポート5555で始まるファイアウォール上のTCPポートの範囲を開きます。範囲はNEの数に応じますが、少なくとも150を指定できます。

7. /opt/CiscoTransportManagerServer/bin照します。

8. ctms-startを使用してCTMを再起動し、変更を実装します。

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)